

**2025年度 織田きもの専門学校  
学校関係者評価報告書  
(令和7年度)**

**評価対象期間**

**2025年4月1日～2026年3月31日**

**織田きもの専門学校  
学校関係者評価委員会**

## 1. はじめに

2025年（令和7年）4月1日～2026年（令和8年）3月31日を評価対象期間とした自己点検評価報告をもとに織田きもの専門学校学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここにご報告いたします。

本校が社会およびきもの業界に対して高い価値を提供すべく、より良い教育を目指すため、委員の皆様にご評価とご意見をお伺いいたしました。学校関係者評価の結果を踏まえ、学校運営の更なる改善と教育の質向上に努めて参ります。

開催日：2026年5月18日（水）14：00－15：30

会 場：織田学園第8校舎 理事長室

## 2. 学校関係者評価委員（敬称略）

氏名	所属	役職等	種別
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	顧問	有識者委員
上乘 幸喜	株式会社 三松	取締役	関連業界 企業役員
花澤 一美	株式会社 撫松庵	営業職	関連業界 卒業生

## 3. 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価方法

学校より自己評価の各項目について評価委員に報告を行い、自己評価の評価点（3・・・基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている。 2・・・基準をおおむね満たす。 1・・・基準を満たしておらず改善が必要。）が適切か適切でないかを学校関係者評価委員3名よりそれぞれ評価をいただいた。

#### 4. 自己評価に基づく学校関係者評価

##### 項目1. 教育理念・目的・目標

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	3	適切3
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられていること。	3	
教育理念やポリシーが学内外に広く公表されていること。	3	

##### 【評価結果の自己分析】

教育理念、目的、目標は学則に明記し、WEBサイト情報公開や、学校パンフレット等で公開している。

また、就職先企業や、染織産地企業より授業を受ける機会を設け、業界からのニーズに方向づけている。

【今後の改善方策】 \*自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

##### 【学校評価委員の意見・提言】

・きもの専門学校として、学生の将来、就職（自己実現）を見据え、コミュニケーション能力の向上と専門スキルの習得の場を提供している。

・教員や講師が学生に寄り添い、日々の授業や課題に取り組み、成果として個々の学生が変化への対応力や自己実現に向けた意志を持つ人材に育っていくことを目標としていることがうかがえる。

・教育理念や方針が明確に整理、公開されていると思う。

・業界からのニーズを意識した教育方針は大切だが、学生世代ならではの感性や新しい視点も取り入れていくことも重要だと思う。

・学校案内やHPに学校の強みや目指せる職業などが明記されている点は評価できる。

・ディプロマポリシーについては、卒業時に求められる人材像を明示することが望ましい。(現状「きものの縫製、着装、デザイン、染色、日本刺繍、ヘアメイクなどきものについての基礎を十分に修得している。）」\*学修成果にしか触れていない。)

項目2. 教育課程、教育の実施、学修成果

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	3	適切3
授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	3	
学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	3	
卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	2	
学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	2	

<p><b>【評価結果の自己分析】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念、目的、目標は学則に明記し、WEBサイト情報公開や、学校パンフレット等で公開している。</li> <li>・就職先企業や、染織産地企業より授業を受ける機会を設け、業界からのニーズに方向づけている。</li> </ul>
<p><b>【今後の改善方策】</b> *自己点検評価結果が2以下の内容について記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの見直しにより、自主学習の時間が確保できているので、検定試験合格に向けて授業以外にも取り組むことで、合格率の向上をサポートする。</li> <li>・企業との連携を構築し、窓口を広げていく。</li> </ul>
<p><b>【学校評価委員の意見・提言】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業科目等をWEBサイトで公開している点は透明性があり良い取り組みだと感じる。今後は卒業後の進路や就職先がより具体的に見えると在学中の学習意欲向上にもつながると思う。</li> <li>・妥当だと思う。</li> <li>・全体として大きな問題はないと思われるが、今後の改善方策に記載の「検定試験の合格率アップ、企業との連携カリキュラム拡充」については、教職員間で検討し、改善して欲しい。</li> </ul>

項目3. 学生の受け入れ、学生支援

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	適切3
学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	
学生の学力や学習状況を把握し、補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	2	
カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	3	
留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	
学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	
学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	
学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・学生募集については、学則に従い適切に行い、入学者募集要項等に適切に明記している。
- ・外部の専門機関と連携したメンタルヘルス相談体制を整備している。
- ・奨学金制度を学生に周知する、学費の分納制も必要に応じて進めている。
- ・外部企業からも求人掲載のできるWebシステムを活用し、卒業後も利用できるようにしている。

【今後の改善方策】 \*自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・自主的な学習支援をする体制は、整えているが、学生自身が取り組もうとする姿勢が弱く、結果に結びついていない。学ぶ方向性を導いていく。

**【学校評価委員の意見・提言】**

- ・ 支援体制は充分整備されている印象を受ける。その上で、学生自身が卒業後の将来像をより具体的にイメージできる発信やサポートが充実することで、主体性や学習意欲の向上にもつながると感じる。
- ・ 選考基準、入学者の受け入れは適正にされていると思う。一方、成績優秀者に対する具体的な支援内容が示せれば、それを目指す学生が増え、ボトムアップにつながるのではないかと。
- ・ 自主学習は現場に出ても非常に重要なので、学生自身が何をすべきか自分で考えられるように指導して欲しい。
- ・ 少人数制で行き届いた学習指導体制がとれている。一方、今後の改善方策に記載の「学生自身が取り組もうという姿勢が弱い」という点は、教員側から学生に働きかけていくことが求められているのではないかと。
- ・ 経済的困難を抱える学生に対する相談・支援の体制はできているようなので、今後とも学業と両立できるように努めて欲しい。

項目4. 教育実施組織、教員

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。	3	適切3
教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。	3	
学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	3	
教員間で連携、協力体制を構築していること。	3	
学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・教員については、一定基準の専門知識を重視の上、採用をしている。また、常勤教員、非常勤教員、共に授業数、授業内容をシラバスにて管理している。
- ・教員の業務体制は、PCやタブレットで共有し管理している。
- ・教員研修は定期的実施している。外部研修についても参加できる体制を整えている。

【今後の改善方策】 \*自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・教育環境は整っている印象を受ける。
- ・学生にとっては学習面だけでなく、精神的な支えも大切な時期だと思うので、引き続き相談しやすい環境整備に期待する。
- ・授業の特性を出すために、染織、織物等に精通している伝統工芸士に協力を依頼するなどし、特別授業としてカリキュラムに加えては。
- ・教員の配置や組織編成等についてはほぼ適切になされている。教員が研修に参加できる体制が整えられているので、計画的に研修に参加し、その成果を学生に還元するようにして欲しい。

項目5. 教育環境

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	2	適切2  不適切1
インターネット接続環境を整え、学生が必要に応じて情報検索等ができること。	2	
学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	2	
火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。	2	
施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。	3	
施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。	2	

【評価結果の自己分析】

- ・安全対策や施設設備の点検は定期的に行っているが、設備が老朽化し始めている箇所も見受けられる。
- ・インターネット環境は、一部のみ使用できている。

【今後の改善方策】 \*自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

- ・インターネット環境は、随時整えているところ（今春にも完了）。
- ・施設の整備、改修を随時行っていく。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・学生にとって安心して学べる環境作りは大切。今後の設備更新や整備に期待。
- ・インターネット接続環境を整えることがベースだが、今やAIを活用し、より効率的かつクリエイティブに物を生み出すことが可能。重要なので早急に整えるべきだと思う。
- ・環境整備、施設設備の点検等に関しては適切だと思われる。
- ・設備老朽化が一部あるようだが、計画的に改修や整備を行って欲しい。
- ・学校は「学生の安全」が第一なので、安全対策や防犯対策には万全を期して欲しい。

項目6. 教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

評価の基準	自己点検 評価結果	委員の 評価
学校が策定している事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	適切3
学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	3	
学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	
学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。	3	
学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	
学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	3	
当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	

【評価結果の自己分析】

- ・WEBサイトでの情報公開で、事業計画を公開し、教育目標として実施している。
- ・自己点検評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。
- ・学校関係者評価委員会での意見を重視し、向上に努めている。

【今後の改善方策】 \*自己点検評価結果が2以下の内容について記述。

【学校評価委員の意見・提言】

- ・WEBサイトでの情報公開等、継続的に取り組む姿勢が感じられる。
- ・学校の取り組みや成果が学生や保護者、社会に向けてより分かりやすく発信されることで、学校の魅力や信頼性につながると思う。
- ・地域社会との連携や各種文化イベントへの参加等、積極的に展開していると思う。
- ・HP等での情報開示は進んでいるが、今や海外から日本を訪れる人は年間4000万人を超えている。「日本文化の魅力に触れたい」という人が来日し、着物に対する興味も高まっている。現在の発信の取り組みをさらに強めることが学校の繁栄にもプラスになると思う。
- ・学校評価の実施と、その評価結果に基づく改善については、この数年で意識的に行われるようになったと言える。HPでの「情報公開」も改善されている。
- ・SNSやHPを活用して教育活動や学修成果の情報発信もできているが、さらに継続的に発信していくように努めて欲しい。

## 5. 総評

○"着物の専門学校"の存在自体が一般に充分に知られていない面もあると思う。学校の取り組みや日常の様子をより発信することで学校への理解、関心にもつながっていくのではないと思う。学生のプライバシーへの配慮も必要だが、学校生活の雰囲気や学びの様子など、日常的な魅力が伝わる発信に期待している。

○業界側としても、世代差がある業界だからこそ、次世代を受け入れ、育てていく姿勢を大切にしたいと感じた。

○これまでの堅実な運営に加えて、きものを通して文化、アート、創造等、総合的に受け入れ範囲を拡げ、多くの志望者が国内外から来て、きものを通して活躍できる人材を輩出していただけたら素晴らしい。

○東京では数少ない着物・和裁の専門学校であり、着物の魅力を業界と連携して積極的に発信して人材を発掘するとともに、実践的な職業教育を通して確かな技術と知識を備えた人材の養成に努めて欲しい。

○着物・和裁を志望する高校生は少ないが、イベントなど社会貢献・地域貢献に協力し、SNSなどで情報発信することで、広く社会の人びとや高校生に着物の魅力を再認識してもらう機会を作り、入学者の確保につなげてもらいたい。

○中期事業計画と当該年度の事業計画に基づいて教育活動を行い、その上で学校評価を実施し、その評価をもとに改善を図るというPDCAサイクルに基づく学校運営が組織的かつ継続的に行われることが望ましい。この数年でかなり意識的に取り組まれるようになったと感じている。ただ、今年度の自己点検評価報告書は、それぞれの項目についての現状の説明が具体的に書き込まれないため、現状把握が難しかったので、この点の改善をお願いしたい。

○高校の進路指導が大学進学に重点が置かれ、専門学校に目を向ける高校が少ないのが現状ではあるが、入学者確保のために、SNS・HP等で学校の魅力や活動を積極的かつ効果的に発信すると共に、高校との連携で関係を深める取り組みをお願いしたい。

○専門学校は2026年度から自己点検評価が義務化され、第三者評価が努力義務化されることになった。評価機関による第三者評価の実施について、織田学園の社会的評価を高めるためにも、2～3年のうちに実施することについて検討をお願いしたい。

以上

織田きもの専門学校  
学校評価委員会